

**単元名 栽培の基礎学習「草花・ハーブの栽培と利用」**  
**(体験活動との関連を図った指導)**

県立大竹高等学校

- 1 学 年 第2学年
- 2 単元名 第3章 栽培の基礎学習「草花・ハーブの栽培と利用」
- 3 単元目標 スミレ科の1年草の「パンジー」やキク科の1年草「ヒマワリ」「コスモス」の栽培に関する基礎的な知識を身に付け、これまでの既習内容から多面的に考察し、は種、定植などの作物の管理及び除草、かん水などの栽培環境の管理が適切に判断できる。
- 4 教 材 高等学校農業科「農業科学基礎」(農山漁業文化協会出版)
- 5 授業の展開

	指導内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導 入 (5分)	<p>1 前時の学習活動を振り返り、本時の目標と学習内容を確認する。</p> <p>○スミレ科の1年草の「パンジー」やキク科の1年草「ヒマワリ」「コスモス」の栽培管理に係ることを振り返り各班ごとに発表することを伝える。</p>	<p>○前時の学習内容を振り返らせ、本時の学習目標を説明する。</p> <p>○本時の目標を黒板に提示する。</p> <p>○学習内容への動機付けを行う。</p>	
展 開 (40分)	<p>2 班ごとにそれぞれテーマに沿って話し合い、まとめたことを発表する。取組の中から学んだことも発表させる。</p> <p>1班 播種や移植について</p> <p>2班 土づくりについて</p> <p>3班 定植後の管理について</p> <p>4班 開花後の管理について</p> <p>3 播種から開花させるまでを振り返らせる。</p> <p>○先程の各班の発表内容を踏まえ、今までに草花を育ててきて、どのように感じ・考えたのかを交流させる。</p> <p>4 10月10日の特別活動〔ホームルーム活動〕のときの生徒の感想を範読し、印象に残った所にアンダーラインを引かせる。</p> <p>別紙 プリント</p> <p>○2, 3名に発表させる。</p>	<p>○それぞれの班が発表するときに、パワーポイントで生徒が活動しているところを提示する。</p> <p>○コスモスの種をまいたり、植替えをした時に注意したことは何かを思い出させる。</p> <p style="text-align: center;">〔例：は種、覆土〕</p> <p>○土の中にいた生物が何か。それは草花にどのような影響を与えているか確認させる。</p> <p style="text-align: center;">〔例：ミミズ、ナメクジなど〕</p> <p>○除草や病害虫について雑草の種類やアブラムシやうどん粉病、天敵昆虫についておさえる。</p> <p style="text-align: center;">〔例：除草、病害虫〕</p> <p>○花がらは、早目に摘み取ると花のつきが良くなり株の衰弱が防止できる。肥料(牛ふん、鶏ふん、苦度石灰)や水やりなどの意義についておさえる。</p> <p style="text-align: center;">〔例：施肥、かん水〕</p> <p>○真剣に発表させるとともに聞かせることで、他の生徒の気持ちや考え方を共有させる。</p> <p>○栽培している過程での生徒の思いをもとにコメントする。</p> <p>○既習内容や発表内容を踏まえ、長年取り組まれてきた花いっぱい運動の「価値」を考えることで、自分とのかかわりで考えを深めさせる。</p> <p>○アンダーラインを引いた場所とともに、その理由を聞く。</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>スミレ科の1年草の「パンジー」やキク科の1年草「ヒマワリ」「コスモス」の栽培に係る基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>(態度、記録簿)</p> <p>【思考・判断】</p> <p>多面的に考察し、は種、定植などの作物の管理及び除草、かん水などの栽培環境の管理の時期や方法が適切に判断できる。</p> <p>(態度、記録簿)</p>
ま と め (5分)	<p>5 本時のまとめと次時の予告を確認する。</p> <p>実習記録簿を必ず提出するように指示する。</p> <p>○次時の予告 パンジーの定植</p>	<p>○本時の目標に到達しているか生徒自身に振り返りをさせる。</p> <p>○次時の内容を把握させる。</p>	

# 活用に生かすための実践報告

県立大竹高等学校

## 1 地域や生徒の実態

長年の地域交流や花いっぱい運動等様々な取り組みを通して学校全体が落ち着き、部活動や進路において目標を持って努力をする生徒が見られるようになってきた。夏休みの間も部活動や補習に取り組む生徒の姿が常にある。しかし、学校全体としては落ち着いていても自己肯定感が高くないなど、生徒が抱える課題は相変わらず大きいと感じている。

## 2 教材開発及び指導過程の工夫

本校では生徒会や農業科を中心に、異年齢の園児・児童・生徒とのかかわりや地域の方々とかかわりを花いっぱい運動を中心に年間を通じて行ってきたが、全教職員の共通理解が図れていたかという点、十分とは言えず、実施時期やその内容、その方法を確認するところで留まっていたように思う。そこで、全教育活動を通じて道徳教育が効果的に実践されるようにするため、実施時期や内容・方法のみではなく、全校生徒や生徒会とどうかかわり、どの授業と関連しているかが一目で分かるように工夫をした。研究計画で、6月に花いっぱい運動について話し合い、フィードバック、振り返りを行った。これは、昨年度取り組む中で、花の苗をプランター等へ定植する時の生徒の態度や苗に対する思い、そして移植後の活動について課題が明確となったので、今年度はめざす生徒像の実現に向けて、全教職員が共通理解を図れるように計画を年度当初に作成することにしたものである。また、多くの生徒は苗からの定植だが、農業を学ぶ生徒がどのような気持ちで種から花の苗を育てているのかを知ることにより「ヒマワリ2013」を振り返らせ、意識の変化を確認した。

農業の授業では、道徳性育成の視点として、○体験活動を通じ、命の大切さを学ぶ(平成25年度道徳教育の全体計画)○これまで草花を育ててきた中で、どのように感じ・考えたのかを視点をもって発表させ、生命の尊さを改めて感じ、かけがえのない命を守り育てることについて深く考える○特別活動(ホームルーム活動)における「花いっぱい運動」についての生徒の感想を生かして、自分たちの取組と生命のつながりについて考えるなどの視点を明確に持ち取り組んできた。

## 3 発問の工夫

真剣に発表させるとともに聞かせることで、他の生徒の気

持ちや考え方を共有させた。また、「各班の内容を踏まえ、今までに草花を育ててきて、どのように感じ・考えたのか」を問い、栽培している過程での思いをもとに草花の栽培で取り組んで学んだことも発表させた。

## 4 生徒の反応

生徒の意識等調査における平成25年度当初と年度末の比較では、「自分にはよいところがある。」の項目で肯定的回答の割合は59.0%から68.4%と9.4ポイント増加している。「そう思う」生徒の比較をすると15.2ポイントアップしている。このことから取組を通して、自ら努力し、人の役に立ちたいと思う気持ちは高校生活を通じて高まっている。

今年度は体験活動をして終わりではなく、体験活動を振り返る場として、特別活動(ホームルーム活動)において、生徒自身の体験を終えての思いを基に、全校で感想を交流していく場を設定した。そのことが、肯定的回答の割合が73.5%から82.8%と9.3ポイントの増加につながっていると考える。

## 5 成果と課題

全校で取り組んだ「ヒマワリ2013」、「コスモス2013」を振り返って、「全校生徒のアンケートのまとめ」や「農業科目選択生徒の意見」から、生命について考えることを通して、自他の生命の尊さや生きることの素晴らしさについての記述が見られ、道徳的価値の自覚を深めることができたといえる。また、道徳性育成の視点をもって、特別活動(ホームルーム活動)を全学年で実施することができた。授業の中の生徒の意見に「命の大切さやみんなで見目に新しい命を育てることに取り組むのは素晴らしい。継続の大切さ。協調性の大切さを改めて痛感しました。」があり、役割や責任をもって体験的な活動を行い、振り返りをする中で、勤労観や達成感を持った生徒が育ち、自己肯定感を高めることができた。課題としては、全教職員で道徳教育を推進するための推進体制の機能化を図っていくことである。